

病害虫情報(第5号)8月予報

平成28年7月29日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

【内容】

- I 8月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、ブドウ、カキ、チャ、抑制トマト、抑制キュウリ、イチゴ、ナス、ネギ、キャベツ】
- II 8月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 10

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、平成28年7月20日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 8月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

生育:6月上旬植 並、6月中旬植 並 (生産技術部:キヌヒカリ)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
いもち病(穂いもち)	並	△	(予・治) コラトップ粒剤5 [出穂30日前～5日前,2回] 3～4kg/10a (予・治) ブラシフロアブル [7日,2回] 1,000倍 等 ◆ ブラシフロアブルを飼料用米栽培に使用する場合は、欄外記載(※)の対策に留意すること。
紋枯病	並	○	(予・治) リンバー粒剤 [30日,2回] 3～4kg/10a (予・治) モンカット粒剤 [出穂30～10日前,14日,3回] 3～4kg/10a 等 ◆ 防除適期は出穂期まで。
斑点米カメムシ類	やや多	◎	キラップ粒剤 [14日,2回] カメムシ類、ウンカ類:3kg/10a アルバリン 又は スタークル粒剤 [7日,3回] 3kg/10a 等
ヒメトビウンカ	やや少	△	◆ キラップはカメムシ類対策を主として使用する。
セジロウンカ	やや少	△	◆ 斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底する。
ツマグロヨコバイ	並	△	◆ 水田への飛び込みを防ぐため、出穂10日前頃からの周辺除草は控える。
ニカメイチュウ	並	△	◆ アルバリン又はスタークル粒剤を飼料用米栽培に使用する場合は、欄外記載(※)の対策に留意すること。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

※ ブラシフロアブルおよびアルバリン又はスタークル粒剤を飼料用米栽培に使用する場合は、次の対策に留意すること。

- (1) 飼料用米について、出穂以降(ほ場において出穂した個体が初めて確認される時点以降をいう。以下同じ。)に農薬の散布を行う場合には、家畜へは糶摺りをして玄米で給餌すること。
- (2) 粳米のまま、もしくは粳殻を含めて家畜に給餌する場合は、出穂以降の農薬の散布は控えること。

病害虫情報

(平成28年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

【カンキツ】

生育: やや早(足柄地区事務所根府川分室:普通温州)

病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒点病	並	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 みかん:[30日,4回] 400~800倍 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 600~800倍 等 ◆ 8月下旬~9月上旬に防除する。
かいよう病 (中晩柑類)	並	○	コサイド3000 [生育期,-] 2,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 (予・治) カスミンボルドー 又は カッパーシン水和剤 みかん:[7日,5回] 1,000倍 みかんを除くかんきつ:[45日,5回] 1,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 等 ◆ 傷口から感染するため、ミカンハモグリガの防除を行い、台風通過が予想される前には予防散布を行う。
ミカンハダニ	並	○	ダニエモンフロアブル [7日,1回] 4,000~6,000倍 等
ミカンサビダニ	-	○	
チャノキイロアザミウマ	並	△	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

病害虫情報

(平成28年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

【ナシ】 生育: やや早(生産技術部果樹花き研究課: 豊水)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	並	○	オーシャイン水和剤 [前日, 5回] 3,000倍 等
シンクイムシ類	やや多	○	アクタラ顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 スカウトフロアブル [前日, 5回] シンクイムシ類: 2,000倍、カメムシ類: 1,500倍
カメムシ類	並	○	フェニックスフロアブル [前日, 2回] シンクイムシ類: 4,000倍 等 ◆ ナシヒメシンクイの第4世代の幼虫を対象とする防除適期は、8月上旬と予想される(小田原、伊勢原)。 ◆ 山際の園ではカメムシが飛来する可能性があるので注意する。発生が見られたらただちに防除する。
ハダニ類	やや少	○	マイトコーネフロアブル [前日, 1回] 1,000~1,500倍 等

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合: 1年2回
- ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
 - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合: 1年2回

【ブドウ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	やや多	○	(予) Zボルドー [-, -] 500~800倍 + クレフノン [-, -] 100倍 等

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(フリント、アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合: 1年1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合: 1年2回
- ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合: 1年1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合: 1年2回
- ◎ CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(レーバスフロアブル)の場合: 1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェステイバルM水和剤等)の場合: 1作2回

病害虫情報

(平成28年・第5号・8月) 神奈川県農業技術センター

【カキ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	並	○	(予・治) トリフミン水和剤 [前日, 3回] 2,000~3,000倍 (予・治) トップジンM水和剤 [前日, 6回] 1,000~1,500倍 (予・治) ベルクート水和剤 [14日, 3回] 1,000~1,500倍 等 ◆ ベルクートは西村早生では薬害を生じるので使用しない。
カキノヘタムシガ	—	○	アタブロンSC [14日, 3回] 4,000倍 ダントツ水溶剤 [7日, 3回] 2,000~4,000倍 等
カメムシ類	並	○	アクタラ顆粒水溶剤 [3日, 3回] 2,000倍 等 ◆ ナシのカメムシの項を参照。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【チャ】

生育:並(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
炭疽病	やや少	○	(予・治) ストロビーフロアブル [10日, 3回] 2,000~3,000倍 (予) ダコニール1000 [10日, 1回] 700~1,000倍 等
チャノキイロ アザミウマ	やや少	○	アドマイヤー顆粒水和剤 [7日, 1回] チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、 チャノホソガ:5,000~10,000倍 ロディー乳剤 [7日, 1回] チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、 チャノホソガ、チャノコカクモンハマキ:1,000~2,000倍 チャハマキ:1,000倍 等
チャノミドリヒメ ヨコバイ	やや少	○	
チャノホソガ	やや少	○	
ハマキムシ類 チャハマキ チャノコカクモ ンハマキ	やや少	○	
カンザワハダニ	少	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

病害虫情報

(平成28年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや多	○	【育苗期:粒剤施用】 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回] コナジラミ類:1~2g/株 ベストガード粒剤 [育苗期,1回] コナジラミ類:1~2g/株
アザミウマ類	—	○	【育苗期:散布】 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] コナジラミ類: 4,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍 ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000~2,000倍 ☞ ハチハチは幼苗期に使用すると薬害を生じる恐れがあるので注意する。 【育苗期後半~定植時:粒剤施用または灌注】 プリロツソ粒剤 [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株 ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] コナジラミ類:400倍、25ml/株 【定植時:土壌施用】 モスピラン粒剤 [定植時,1回] コナジラミ類:1g/株 【定植後:散布】 ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 アニキ乳剤 [前日,3回] コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ:1,000~2,000倍
			等 ◆ TYLCV(黄化葉巻病)やToCV(黄化病)の感染を防ぐためにはコナジラミ類の防除が重要。 ◆ TSWV(黄化えそ病)やCSNV(茎えそ病)の感染を防ぐためにはアザミウマ類の防除が重要。 ◆ 育苗期のウイルス病感染防止策を徹底するとともに、育苗施設内外の除草を徹底する。 ◆ 0.4mm目合い以下の防虫ネットを、育苗施設の開口部に展張するか、育苗ベットにトンネル掛けする。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報

(平成28年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

【抑制キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, —] うどんこ病: 1,000～2,000倍
うどんこ病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [前日,3回] べと病: 600～800倍 (予・治) ランマンフロアブル [前日,4回] べと病: 1,000～2,000倍 等 ◆育苗期の殺菌剤散布は、病害予防の効果が高い。但し、高温による薬害に注意。
アブラムシ類	やや多	○	【育苗期: 株元施用】 ベストガード粒剤 [育苗期,1回] アブラムシ類、コナジラミ類 : 1g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回] アブラムシ類: 1g/株、コナジラミ類: 1～2g/株
コナジラミ類 タバココナジラミ オンシツ コナジラミ	—	○	【育苗期後半～定植時: 粒剤施用または灌注】 プリロッソ粒剤 [育苗期後半～定植時,1回: 株元散布] 2g/株 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日,1回: 灌注] 400倍、25ml/株
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○	【定植時: 株元施用】 モスピラン粒剤 [定植時,1回] アブラムシ類: 0.5～1g/株 【育苗期～定植後: 散布】 ダントツ水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ : 2,000～4,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [前日,2回] ミナミキイロアザミウマ: 1,500倍 等 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ CMV等モザイク病の感染を防ぐためにはアブラムシ類、CCYV (退緑黄化病)の感染を防ぐためにはコナジラミ類、MYSV(黄化えそ病)の感染を防ぐためにはアザミウマ類の防除が重要。 ◆ 育苗施設内外、本圃内外の雑草防除を徹底する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫* 日前まで」を「* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合: 1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合: 1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合: 1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合: 1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合: 1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合: 1作2回

病害虫情報

(平成28年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

【イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
炭疽病	—	○	【育苗期】 (予) タフパール [育苗期～前日, —] 2,000～4,000倍 (予) アントラコール顆粒水和剤 [仮植栽培期, 6回] 500倍 (予) セイビアーフロアブル20 [前日, 3回] 1,000倍 (予・治) サンリット水和剤 [前日, 3回] 2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 (予・治) ゲッター水和剤 [収穫開始21日前まで, 3回] 1,000倍 等 ◆ 発病した苗の治療は期待できない。発病株とその隣接株を速やかに処分する。 ◆ 薬剤防除は10～14日間隔でローテーション散布し、発病が見られたら4～7日間隔に短縮する。 ◆ タフパールは、有効成分が植物体に定着するために、散布後、半日程度湿度を保つ必要があるので、夕方散布するとよい。
うどんこ病	—	○	【育苗期】 (予) タフパール [発病前～発病初期, —] 2,000～4,000倍 (予) サンヨール [前日, 6回] 500～1,000倍 (治) カリグリーン [前日, —] 800～1,000倍 (予・治) サンリット水和剤 [前日, 3回] 2,000～4,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 等 ◆ 高温期には、白い粉状の病斑が見られず、赤紫色の壊死斑となるが病原菌は残存している。 ◆ 本圃に発病株を持ち込まないよう、壊死斑も含めて発病葉をできるかぎり除去し、防除を徹底する。 ◆ タフパールは、有効成分が植物体に定着するために、散布後、半日程度湿度を保つ必要があるので、夕方散布するとよい。
ハスモンヨトウ	やや多	○	トルネードエースDF [前日, 2回] 2,000倍 アファーム乳剤 [前日, 2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

タフパールとの散布間隔 (メーカー技術資料より抜粋)

- ▶ セイビアー、サンリット、サンヨール、カリグリーン:3日以上、アントラコール、ゲッター:7日以上、ベルクート(水和剤):10日以上、トルネード(フロアブル)、アファーム:混用事例あり

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1作1回
 - その他の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ファンベル)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤の場合:1作1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報

(平成28年・第5号・8月) 神奈川県農業技術センター

【ナス】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	やや多	○	(予)フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍 (予・治)ベルコートフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治)ガッテン乳剤 [前日,2回] 5,000倍 等
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] 2,500~5,000倍 プレオフロアブル [前日,4回] ミナミキイロアザミウマ:1,000倍 ダントツ水溶剤 [前日,3回] ミナミキイロアザミウマ:2,000倍 等
ミカンキイロ アザミウマ	やや多	○	
オオタバコガ	やや多	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] 5,000倍 プレオフロアブル [前日,4回] 1,000倍 アニキ乳剤 [前日,3回] 2,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	スターマイトフロアブル [前日,1回] 2,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
チャノホコリダニ	やや多	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報

(平成28年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

【ネギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒斑病	—	○	(予) ダコニール1000 [14日,3回] 1,000倍 (予・治) ロブラー水和水剤[14日,3回] 黒斑病:1,000~1,500倍 (予・治) ラリー水和水剤[7日,3回] さび病:2,000倍
さび病	—	○	等 ◆肥料不足や窒素過多にすると発病しやすい。
ネギアザミウマ	並	○	スピノエース顆粒水和水剤 [3日,3回] アザミウマ類:2,500~5,000倍、シロイチモジヨトウ:5,000倍
シロイチモジヨトウ	—	△	モスピラン顆粒水溶剤 [7日,3回] アザミウマ類:2,000倍

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【キャベツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	—	○	(予) Zボルドー [—, —] 500倍 (予) ダコニール1000 [14日,2回] 1,000倍 等 ◆育苗期から発生に注意。
ハイマダラノメイガ	—	○	①【育苗期:苗地床灌注】 ジュリボフロアブル [は種時~育苗期後半,1回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ :1000倍(苗地床1㎡あたり2L) ②【育苗期:セル成型育苗 又は ペーパーポット育苗灌注】 ジュリボフロアブル [育苗期後半~定植当日,1回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ:200倍 (1箱又は1冊あたり0.5L) ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、アザミウマ類:400倍 (1箱又は1冊あたり0.5L) ③【育苗期後半又は定植時:粒剤施用】 ダントツ粒剤 ハイマダラノメイガ:[育苗期後半,1回] 0.5g/株 又は [定植時,1回] 1~2g/株 ネギアザミウマ:[育苗期後半,1回] 0.5g/株 ④【育苗期~定植後:散布】 プリンスフロアブル [14日,2回] ハイマダラノメイガ、オオタバコガ、ネギアザミウマ:2,000倍 アフーム乳剤 [前日,3回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ:1,000~2,000倍
ハスモンヨトウ	やや多	○	
オオタバコガ	やや多	○	
ネギアザミウマ	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成28年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

Ⅱ 8月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 8月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部7月25日発表3か月予報)

〈天 気〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並み	高い(多い)
気 温	20%	40%	40%
降 水 量	30%	40%	30%
日照時間*	50%	30%	20%

*7月21日発表1か月予報による。

(2) 8月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稻	いもち病 (穂いもち)	少	並	1) 巡回調査では、葉いもちの発病は認められず、発生は平年並。(±) 2) いもち病常発地点においても、葉いもち発病が認められない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並、日照時間は平年より少ない予報。(－)
	紋枯病	少	並	1) 巡回調査では発病は認められず、発生は平年並。(±) 2) 生育診断ほにおける生育は、草丈平年並み、分けつ数平年並～少、葉色平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	斑点米カメムシ類	少	やや多	1) 予察灯における誘殺数は、一部の地域で平年より多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ヒメビウンカ	少	やや少	1) 予察灯における誘殺数は、平年より少ない。(－) 2) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	セジロウンカ	少	やや少	1) 予察灯における誘殺数は、平年より少ない。(－) 2) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	トビイロウンカ	少	並	1) 予察灯における誘殺は、認められていない。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ツマグロヨコバイ	少	並	1) 予察灯における誘殺数は、平年並。(±) 2) 巡回調査では、発生がやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成28年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稻	ニカメイチュウ (ニカメイガ)	少	並	1) 巡回調査では被害は認められず、発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯とフェロモントラップにおける越冬世代の誘殺数は、平年より少なかった。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	コブノメイガ	少	並	1) 巡回調査では被害が認められず、発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯における誘殺は、認められていない。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
カンキツ	黒点病 (果実)	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉での発生が平年よりやや少なく、果実では少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	かいよう病 (果実)	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉での発生が平年よりやや多く、果実ではやや少ない(±)。 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)の粘着トラップでは、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ナシ	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	シンクイムシ類	－	やや多	1) フェロモントラップへの第2世代誘殺数は、県予察ほ(上吉沢)では平年並、小田原では5年平均より多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハダニ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成28年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ブドウ	べと病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が見られず平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
カキ	うどんこ病	－	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	少	並	1) ナシの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は平年より、南足柄で少なく、県予察ほ(根府川)、伊勢原でやや少ない。(－) 3) 予察灯への誘殺数は平年より、県予察ほ(根府川)で少なく、県予察ほ(上吉沢)でやや少なく、伊勢原、山北では並。(－) 4) ヒノキ球果上のカメムシ寄生数は、幼虫が平年並み(±)、成虫がやや多い(+) 5) ヒノキ球果上の吸汁痕(口針鞘)数は平年よりやや多い。(+) 6) 自然環境保全センターの調査から、ヒノキの球果量は例年より並～やや多いため、新世代成虫の発生は並～やや多いと予測される。(±) 7) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
チャ	炭疽病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が見られず平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(－) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)
	チャノミドリヒメヨコバイ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年より少ない。(－) 3) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 4) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 5) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(平成28年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	ハマキムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より多い。(＋) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北で平年並(±)、県予察ほ(寸沢嵐)で平年より少ない(－)。 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	チャノホソガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年並。(±) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北では平年より少なく(－)、県予察ほ(寸沢嵐)では平年並(－)。 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	カンザワハダニ	少	少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(－) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が見られず平年より少ない。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
抑制トマト	タバココナジラミ	少	やや多	1) 巡回調査では、露地トマトでタバココナジラミの発生は平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
抑制キュウリ	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、ナス、露地トマトでの発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、ナスでの寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ナス	うどんこ病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミカンキイロアザミウマ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	チャノホコリダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……………(＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成28年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ネギ	ネギアザミウマ	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
露地野菜 全般	ハスモンヨトウ	－	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、平年より多い。(＋) 2) 県予察ほでのフェロモントラップへの誘殺数は、(上吉沢)では平年よりやや少なく(－)、(三浦)では平年並(±)。 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オオタバコガ	－	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜では平年より少なく(－)、伊勢原では平均並(±)。 2) 県予察ほ(上吉沢)でのフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや多い。(＋) 3) 巡回調査では、ナスでの発生が平年並(±)、露地トマトでの発生が平年よりやや多い(＋)。 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因